

平成21年度西海ブロック水産業関係研究開発推進会議
有明海・八代海研究部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1. 開催日時・場所 日時：平成21年11月10日（火） 13:30～17:30
場所：西海区水産研究所 大会議室
2. 出席機関及び人数 6機関 31名
3. 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	西海区水産研究所海区水産業研究部有明海・八代海漁場環境研究センター長が開会を宣言した。
2. 挨拶	主催者として西海区水産研究所長が挨拶し、最近の社会情勢及び今年の有明海・八代海で発生した問題を振り返るとともに、今後も各県試験研究機関と西海区水産研究所との連携と協力が重要であるとの説明があった。
3. 座長選出	西海区水産研究所海区水産業研究部長を座長に選出した。
4. 議事	
1) 有明海・八代海を巡る最近の情勢	<p>各機関から、資料に基づいて最近の情勢報告があった。</p> <p>福岡県からは、例年よりも水温が低く推移し、貧酸素水の発生が前年よりも減少したこと、漁獲対象となるタイラギが生息していないこと、アサリの漁獲量も低下していること等の報告があった。</p> <p>佐賀県からは、ノリの採苗が不安定であること等においてノリ養殖への温暖化の影響が見られること、今年はタイラギが有明海西岸で生残していること、ビゼンクラゲの発生量が多かったこと等の報告があった。</p> <p>長崎県からは、夏季にシャトネラ赤潮が長期・広域化して養殖ハマチ等への被害があったこと及び諫早湾でのアサリ養殖については貧酸素による大量へい死は生じなかったことが報告された。</p> <p>熊本県からは、シャトネラ赤潮による被害状況及び冬から初夏に発生したアオサの異常発生状況、アサリ漁獲量の減少について報告があった。</p> <p>鹿児島県からは、春の鹿児島県沿岸への外洋水の流入、夏のシャトネラ赤潮による被害状況の報告があった。</p>

	<p>当所からは、昨年度の本研究部会後の社会情勢とともに、熊本県沿岸で発生したアオサ被害及び夏のシャトネラ赤潮に対する対応状況、カキ等二枚貝に関する学習会及び魚介類へい死に関する検討会の開催状況等の活動の経過について報告した。</p> <p>地球温暖化に対応したノリの高温耐性品種作出、熊本県沿岸におけるアサリ稚貝の発生量の減少の要因等について論議された。</p>
2) 研究会等報告	
①特産二枚貝増産研究会	<p>資源培養研究室長より、5月20日に開催された第1回の研究会の概要が報告された後、2月または3月に第2回の研究会の開催を予定しているとの説明があった。</p>
②粘質状浮遊物研究会	<p>漁場環境研究科長より、9月29日に開催された第1回研究会の概要が報告された。</p>
③その他の活動	<p>有明海・八代海漁場環境研究センター長が、9月14日と10月27日に開催された第1回及び第2回の「有明海および八代海における魚介類へい死に関する検討会」の概要について報告した。また、今後、大学等を含めた関係機関で連携・協力して、シャトネラ赤潮による魚介類へい死抑制技術の開発等について課題化を進めることを説明した。</p>
3) 研究成果情報の審議	<p>本年度より各研究部会において研究成果情報を審議・承認することについて確認した。引き続き、各県及び当所より提出された「標識放流からみたガザミ軟甲個体の移動と再放流効果」、「広い水温域に適応したノリ優良株「ゆたか」の開発」、「マガキによる有害ラフィド藻 <i>Chattonella</i> 属プランクトンの捕食」の3つの研究成果情報(案)について審議を行い、それぞれ指摘された加筆・修正を行うことで本年度の研究成果情報とすることが承認された。</p>
4) 今後の共同調査研究	
①成果の公表及びその利活用	<p>各機関から、成果の公表及びその利活用について、ホームページを通じて赤潮発生やノリ養殖等に関連する海況情報等を提供している旨の説明があった。</p>
②今後の共同調査研究	<p>各県から、貧酸素水及び底質環境の悪化が定着性動物の生残や再生産に及ぼす影響評価及びタイラギ大量死の原因究明について、今後も継続した共同調査研究が必要であるとの説明があった。また、シャトネラ赤潮モニタリング調査及び粘質状浮遊物の原因究明に</p>

	<p>についても継続した対応が必要であるとの要望があった。当所からも同様に貧酸素調査、赤潮モニタリング調査及び粘質状浮遊物の原因究明については継続して取り組むとともに、新たにシャトネラ赤潮による漁業被害防除に関する共同調査研究が必要であることを説明した。</p>
③新規研究会の提案	<p>新規研究会の立ち上げについての提案はなかった。</p>
④平成20年度提案への対応結果について	<p>有明海・八代海漁場環境研究センター長より、平成20年度提案課題の研究内容及び対応方針とともに、対応結果（案）について説明し、対応結果について了承を得た。なお、平成20年度提案課題については、今後も継続した共同調査研究が必要であるとの要望があり、対応方針に基づき、引き続き関係機関が連携・協力して取り組むことを確認した。</p>
⑤平成21年度研究開発ニーズについて	<p>新規の研究開発ニーズとして、熊本県及び鹿児島県からシャトネラ赤潮の発生メカニズムの解明及び防除技術の開発に関する課題が提出された。有明海・八代海漁場環境研究センター長より、本課題に対する取り組み方針として、「有明海および八代海における魚介類へい死に関する検討会等での検討状況をふまえ、関係機関で連携・協力して取り組むとともに、シャトネラ赤潮による魚介類へい死抑制技術の開発に重点を置いて課題化を進める。」ことを提案し、了承を得た。</p>
5. その他	<p>浅海増養殖研究科長より、本年度もノリの種判別技術講習会の開催を予定している旨を説明した。</p>
6. 閉会	<p>西海区水産研究所有明海・八代海漁場環境研究センター長が閉会を宣言した。</p>